

間違わない補聴器の選び方・着け方(1)

博士補聴器 代表 由井 宏知

自身や家族の聴力を守って 将来のリスクを避ける

少し前の話になります。今年六月から七月にかけてサッカーワールドカップが開催され、日本でも大いに盛り上がりました。私も何試合かテレビで観戦しましたが、その中で

ヨーロッパのチームの観客席が映った際、気になる親子を発見しました。保護者とみられる大人と、小学生くらいの子供が応援している様子が映っており、子供はヘッドホンのようなものを耳につけて観戦している



WC会場でイヤーマフをつけた子ども。

た、日本でもそうです。特に欧米では騒音が多い工場などの職場では、イヤーマフや耳栓をつけることが徹底して義務付けられています。欧米のミュージシャンの中には、日常的に専用の耳栓を着けている人もいます。

人は長時間、あるいは一瞬であれ、強低音にさらされると聴覚に損傷を負う恐れがあります。スポーツイベントやコンサート会場での音、花火や爆竹、鉄砲等の突発的な強低音などです。一時的に聞こえにくくなって回復することもあります。そのまますま聞こえにくい状態が固定してしまう場合もあります。

聴力を損なうことは、周囲とのコミュニケーションを損なうだけでなく、将来的にうつや認知症などの様々なリスク要因となり得ます。問題が起き始めてから後悔することを避けるために、子供のうちから耳を

守ることに注意を向け、対策していくことが肝要なのです。

WHOは2015年にヘッドホンやイヤホンでの長時間にわたる音楽聴取によるヘッドホン難聴の増加を防ぐために、音楽プレイヤーの使用は音量を制限することや、一日一時間以内にとどめるように解決策を提案しました。

当店にご相談にいられる方の中には、職場で騒音に晒されていたという方や、狩猟で鉄砲を使っていたという方なども見受けられます。

知らず知らずのうちに自身で聴覚を損傷してしまうのは非常に残念なことです。イヤーマフや耳栓装着の義務がない職場や趣味、環境などでも、ご自身があるさいな、とお感じになる場合は積極的にイヤーマフや耳栓をお使いになることをお勧めします。まずはご自身が注意を向け、そしてご家族などへ周知することが将来的な問題への対策になるのではないかと思います。